

守り・活かし・つなぐ

古民家と創る 奥三河の未来



守り

活かし

時が経つほど美しい

古民家は、100年・200年という時を日本の気候風土の中で刻んでいる。長期にわたって循環利用が可能な住居であり、“持続可能な社会”に必要な先人の知恵が詰まっている。



曲がり・うねりの木組み日本固有の美を新発見

活かし

つなぐ

奥三河に広がる新しい輪

新城市にある戸田工務店では、古民家に学び、“伝統技術と最新技術を融合した家造り”を行っている。また、田舎と都会の人と人をつなげて、地域の活性化を図るために「NPO法人奥三河田舎暮らし隊」を設立。田舎暮らしの体験を通じて、日本の古き良き暮らしの文化を伝えている。

さらに、新城市行政や「古民家再生協会」と連携し、古民家が再生可能かどうかを調査し、残していけるように提案している。三位一体となって、未来の子どもたちのために、「日本の伝統を守り、活かし、つなぐ」活動を広げている。



地元の大学生に古民家の魅力を伝える
奥三河田舎暮らし隊理事長 戸田由信さん

愛知県東部の奥三河に位置する新城市は、面積の約八割が森林に覆われ、自然豊かな土地柄である。一方、人口減少・少子高齢化に伴う“空き家の増加”が大きな問題となっている。

江戸時代では、木を再利用するのが当たり前な“持続可能な社会”であった。しかし、現在人は、新しいものを求め、住宅も“建てては壊す”という時代に変化していった。

つなぐ

守り

With コロナ & 新田舎暮らし

新型コロナウイルスを機に、リモートワークが可能となり、田舎への移住に関心を持つ人が増えてきた。田舎は都会と比べ、密をさけることができ、家賃もリーズナブルである。人口を増やし、地域を活性化させたい奥三河の人、田舎で心豊かな暮らしをしたい人。双方の想いは重なり、今後、新たな暮らしができるのではないかと、今、注目されている。



千枚田保存会
内閣府地域活性化伝道師 小山舜二さん

鞍掛山麓に広がる“四谷千枚田”